

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：スタンダード系カーネーションの起き上がり仕立てによる2年切り栽培			
[要約] スタンダード系カーネーションでは、切下株（前年栽培した株）を折り倒し、その後起き上がり仕立を行うことにより2年切り栽培が可能となる。本栽培方法の導入により、慣行栽培より種苗費が半減し、改植の労力が半減する。			
キーワード：カーネーション、2年切り、起き上がり、折り倒し			
実施機関名	主 査	農業総合研究センター・暖地園芸研究所・花き研究室	
	協力機関	安房農林振興センター	
実施期間	2004年度～2007年度		

[目的及び背景]

カーネーションは、輸入切り花の増加による販売単価の低迷、栽培面積拡大による改植、整枝等の栽培労力の増大、パテント代を含む種苗費の増大により経営を取り巻く環境は厳しくなっている。

このため、起き上がり仕立て法を長期栽培に利用することにより、改植作業の省力化と種苗費の半減を目的とした作型を開発する。

[成果内容]

- 1 スタンダード系主要栽培品種において、1年目は慣行の仕立て法で栽培後、2年目に起き上がり仕立て法で栽培すると、株が枯死することなく、慣行栽培と同等に採花できる（表1）。
- 2 9～12月の慣行栽培と同程度の採花本数を確保するためには、7月20日以前に折り倒しを行う（表1）。
- 3 起き上がり仕立て法に適する品種は、「シルクロード」、「ブラドミント」、「ホワイトラブ」、「フランセスコ」である（図1）。

[留意事項]

- 1 慣行栽培に比べて、切り花重が軽くなる。
- 2 新たな品種導入に際しては、試作を行う。なお、「アメリカ」は切り花長（データ略）、「デュカッティ」、「カトリーナ」は、採花本数が劣る。

[普及対象地域] 県下カーネーション栽培地帯

[行政上の措置]

[普及状況]

鋸南町 1,200 m²（平成19年度）

[成果の概要]

表 1 「フランススコ」の折り倒し時期と採花本数

試験区	10~12月採花	10~5月採花	10~12月廃棄本	平均切り花重(g/本)	
	本数(本/m ²)	本数(本/m ²)	数(本/m ²)	11月	3月
6月折り倒し	146	323	73	18.0a	35.5a
7月折り倒し	64	258	30	18.5a	33.9a
8月折り倒し	14	251	7	19.2a	33.4a
慣行	68	246	10	27.2b	41.4b

- 注 1) 採花本数：廃棄本数は含まない
 2) 廃棄本数：切り花長 40cm 以下、切り花重 10g 以下、がく割れ切り花本数
 3) 異なるアルファベット間は Tukey の多重検定により 1% レベルで有意差
 4) 栽培概要：起き上がり仕立ては、慣行栽培を行った翌年、外側の株を 1 条ずつ抜いて 4 条とした後、平成 18 年 6 月 21 日、7 月 21 日、8 月 21 日に折り倒し、1 か月後に 200 本/m²を目処に整枝
 慣行は、平成 18 年 6 月 27 日定植(株間 20cm 中 2 条抜き 6 条植)、7 月 10 日 1 次摘心、9 月 5 日に 2 次摘心(1~2 本/株)

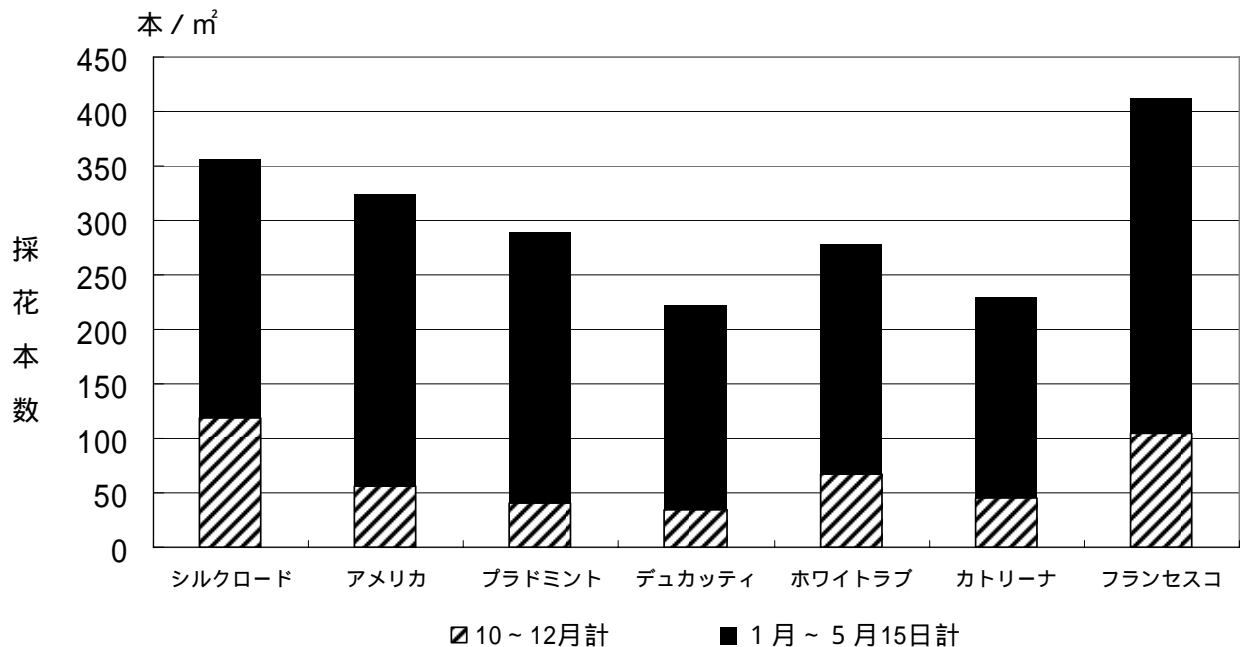


図 1 7月折り倒しによる採花本数の品種間差

- 注) 栽培概要：平成 18 年 6 月 27 日に定植(株間 20cm 中 2 条抜き 6 条植)し、慣行栽培を実施翌年 7 月 17 日に片側 3 条の中央の株を地際から刈り取り 2 条とした後に折り倒し平成 20 年 5 月 15 日まで調査

[発表及び関連文献]

- 1 平成 20 年度試験研究成果発表会(花植木部門)
- 2 スタンダード系カーネーションの起き上がり仕立てによる 2 年切り栽培、園芸学研究、第 7 巻別冊 2、2008 年

[その他]